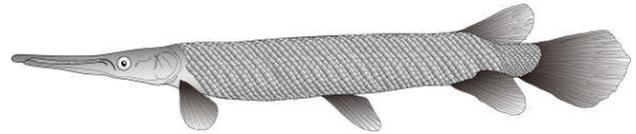


No.441

こうりんぎょ くろびか うろこ かせき
硬鱗魚-黒光りする鱗の化石-

富山では恐竜化石を産出する
手取層群という地層(約1億2000万年前)から、
大きさ約1~2cmの菱形をした硬鱗魚の鱗の化石が発見されています。石を割ったときにキラッと黒光りする鱗の化石はまるで黒い宝石のようです。



ガー

硬鱗魚は硬い鱗で体を覆われている魚で、鱗の表面は光沢のあるエナメル質でできています。硬鱗魚は約4億年前に出現し、中生代(約2億5000万~6500万年前)に繁栄しましたが、新生代になると数を減らしていきました。現在生きている硬鱗魚の仲間には、北アメリカや中央アメリカの川や湖に生きている「ガー」がいます。「ガー」は観賞用として飼育されていますが、長く伸びたアゴには鋭くとがった歯がずらりと並び、昆虫やエビ、他の魚などを食べています。最も大きな「ガー」の仲間である「アリゲーターガー」(全長約2m)は、まさしくワニのような顔をしています。「ガー」の仲間は、浮き袋に血管が広がっていて、空気呼吸をすることができ、酸素の濃度が低い水の中でも生きのびることが出来ます。

約1億2000万年前の手取層群から発見された硬鱗魚の鱗の化石は、当館1階「とやま時間のたび」に展示されていますので、ぜひご覧下さい。恐竜時代に流れのゆるやかな川や湖にじっと潜んでいた硬鱗魚を想像してみましよう。

(藤田将人)



富山の手取層群から発見された
硬鱗魚の鱗の化石